



「コウノトリ育むお米」の取扱状況 ～多くの関係者・消費者に支えられています～

市では、コウノトリも住める豊かな地域づくりを目指し、農薬や化学肥料に頼らず、水管理に工夫を凝らした「コウノトリ育む農法」を推進している。

この農法で栽培されたお米は、安全・安心で美味しいだけでなく、たくさんの生きものを育む生物多様性保全を推進する商品となり、多くの業界関係者から高い評価を受け、取扱店舗数も順調に増えている。

1 コウノトリ育むお米取扱店の拡大状況

ＪＡたじま集荷により、販売が始まった平成17年度の取扱店舗数は59であり、平成23年度の取扱店舗は約8.5倍に増えている。

	平成22年度	平成23年度	比較
取扱い店舗数	400	500	+100(25%増)

取扱い店舗数はＪＡたじま出荷分

平成23年度は3月19日現在の店舗数（取扱店舗は別紙のとおり）

2. 主な取扱店

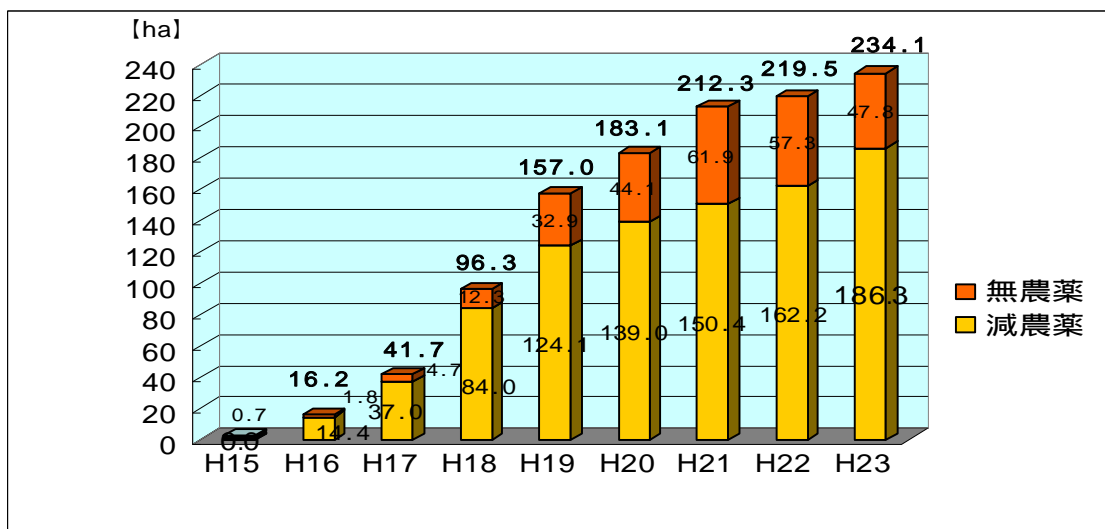
平成23年度は、新たに、岡山県を中心に展開されている量販店「山陽マルナカ」の43店舗で取扱いが始まった。

また、主に関東地方で展開されているスーパー「成城石井」では、3合(450g)の食べきりサイズの商品販売が始まるなど、さまざまな形態で販売されるようになった。

	販売店	販売開始	販売エリア	販売店舗数
量販店	イトーヨーカドー	平成20年	関東、関西、中部地方など	134
	サンエー	平成22年	沖縄県内	59
	トーホーストアー	平成21年	兵庫県内	39
	明治屋ストアー	平成22年	関東地方、京都市	5
	山陽マルナカ	平成23年	主に岡山県内	43
	成城石井	平成23年	関東、関西地方など	35
米穀店	山田屋本店(三越銀座内ほか)	平成17年	関東地方	3

市内コウノトリ育むお米作付面積の推移

コウノトリ育むお米の消費拡大に伴い、作付面積も増え、環境への貢献も大きくなっている。





3. 今後の展開

- ・コウノトリ育むお米の販売を通じて、全国の多くの消費者に本市が進めるコウノトリ野生復帰の取組みを発信し、理解いただく。
- ・このお米のブランド力を一層高め、安定した消費を確保することで市内の作付面積の増加を図っていけるように、流通・小売業者や関係機関などとの連携を強化する。

【参考】

米流通商社である東邦物産(株)(本社：東京都港区)に市職員1人を研修生として派遣する。

派遣職員 農林水産課環境農業推進係 主任

(市職員の身分で研修生として派遣)

研修期間 平成24年4月1日～平成26年3月31日

目的 民間企業のさまざまなノウハウを学び、将来に向けた流通・販売ルート確保と拡大を目指す。

〔問合せ〕コウノトリ共生部農林水産課 0796 - 23 - 1127